

本のちらし

二〇〇七年五月号

本屋探訪

003

私事で恐縮ですが、本を吟味して買う人間になるまで随分かかりました。小さい頃は家族に勧められたり仲間うちで流行っていたりした本を借りて読む程度だったので、本好きであつても本屋との付き合いは限られていました。本屋



contents



- ・本屋探訪 第三回 ……1ページ
- ・特別インタビュー
十号坂で伝説の助っ人及川卓之
が読んでいたのはちらしだった ……2~4ページ
- ・学生注目!!! ……4ページ

製作：天野／石川／小野／関口／千矢／橋山／橋本／原田／松倉／宮家／本池／柳澤／鈴木

にあるのは自分の知ってるどこでも買える本であり、そうでないような古い本は図書室で借りればいい。そんなに多くの本を知っていたわけではないだろうに、自分の知らない本はこの世に存在してないものだと見なししていたのではないかと思います。

そんな私が、自分の知らない本の方が知ってる本より面白いと気付くきっかけになったのが、中学生の頃学校の近所にあったAIBOOKS成城店でした。この店の2階には流行り本とは違った、それまでは名前も知らなかった様な小出版社の本も取り揃えられており、私は宝の山に出くわした気持ちでした。

そしてある日、私は東西の幻想画家について紹介している『怪物の王国』（倉本四郎著／ちくまプリマー

ボックス）という本を見つけてきました。その中で紹介されている絵をきっかけに私は絵という知らない世界を持つようになったのです。

そのようにして私は本屋へ行く楽しみを覚えたのですが、私が通い出してから程なくしてAIBOOKS成城店は店舗を縮小してしまいました。新しい店舗にも一度入ってはみたのですが、せまい店内と貧弱な品揃えにはかつての面白みはまるでなく、すっかり幻滅して店を出たのでした。

それから何年かが経ち、私も色々な本屋さんを巡るようになりました。その中で多くの本に出会い、さまざまな世界に触れることができましたが、今日もまた知らない世界を求めて本屋にいます。

（助っ人 鈴木先輩）

W W O O F（*）ですか？
及 それぞれ。まさにそれです。

それで、言葉は？
及 言葉はもう身振り手振りで。英語でもなんとなくそういうのはわかります。長々と話すのはちよつと難しいかな。でもわかるよ大体。何とかね。例えば宿に行ったら『泊まる』しかな

いから。
『一泊』みたいな。
及 そう『一泊』みたいな（笑）。本当に。そこから入って後は勉強。
最後に、最近読んで



天野慧の なかなか。
『本業失格』
松浦弥太郎
（集英社文庫）
ハンパないっすよ！

白かった本を教えてくださいますか？
及 今は『一万年の旅路』（ポーラ・アンダーウッド 翔泳社 1998年）という本を読んでいます。作者はアメリカインディアン出身で、石器時代の人がアジアから北米、南米へと渡っていく過程を、作者の先祖たちが口承で全部残しているの、それをもとに追っていくという本でとても面白いです。
——本日はどうもありがとうございます。ごさいました。
（2007年2月9日 本の雑誌社にて）

学生注目!!!

四月である。春である。春といえば新入生の季節である。というわけで、今年から助っ人に加わってくれた期待のニューフェイスをここで紹介しよう！

まずは青山学院大学経済学部のこと石川くん。助っ人史上屈指のイケメンとの呼び声も高いが、ヘミングウェイを愛しヨットとスキーを嗜むスポーツマンであり、昼食は質実を旨とするという好青年だ。

次は上智大学法学部のヤツシーこと宮家くん。普段はクールにヘッセを読みこなす彼だが、お酒が入ると何にでも醬油をかけてみるという冒険者の一面を持つ。塚ちゃんこと大塚くんはヤ

ツシーのお友だち。好きな作家は山田風太郎。得意技はよしだまさしさん直伝・忍法探書。古本屋通いで鍛えた眼力を図書館等でも発揮してくれるだろう。

四人目は早稲田大学第二文学部のサツシーこと柳澤くん。好物はビーフシチューで、ご飯にかける食べ方が好み。「三食ビーフシチューでも半年はいけます」と言い切った。

そして慶応大学文学部のケイティーこと橋山さん。児童文学を愛し、最近では豆本の表紙を自分でデザインしてみる事に挑戦中。他にも友人とおいしいそば屋を求め探訪しているとか。

この四人を迎え、本のちらしにとつてもこれからが新学期。新たな助っ人と共に紙面を一層盛り上げていく所存です。今年度もどうかご期待下さい。